

令和2年3月5日

根本正顕彰会会報 第93号

発行者 根本正顕彰会

「踏まれても根強く忍べ路芝のやがて花咲く春をこそ待て」

目 次

1 卷頭言 「深刻な出生数の減少」	会長 増子輝雄	1 頁
2 那珂市「公民館まつり」展示発表	事務局	2 頁
3 第2回公開講座「現代に息づく根本正」(報告)	事務局	10 頁
	(附: 資料)	
4 資料紹介 安藤太郎「ハワイ受洗の始末」(『文学雑誌』)		27 頁
編集後記	副会長 横地富子	37 頁

【お知らせ】(予告)

1 令和2年度根本正顕彰会総会並びに公開講演会

(1) 日 時 令和2年5月17日 (日)

13:30 ~ 16:00

(2) 会 場 那珂市中央公民館 2F 講座室

公開講演会

(1) 講 師 外部講師 を予定

(2) 演 題 「青少年健全育成関連」(予定)

2 第1回公開講座

(1) 日 時 令和2年6月21日 (日) 13:30~15:30

(2) 会 場 那珂市中央公民館 2階 講座室

(3) 講 師 横地富子副会長

(4) 演 題 「国会の中の根本正 パート2」

深刻な出生数の減少

根本 正顕彰会

会長 増子輝雄

厚生労働省は令和元年12月24日に、2019年の人口動態統計の年間推計を発表した。その中で2019年生まれの子ども数（出生数）は86万4,000人（前年91万8,400人）で、初めて90万人を割り込み過去最少となる見通しであるとした。

86万人台になるのは2017年時点での将来推計より2年早く、少子化が深刻さを増している実態が浮き彫りになったのである。

出生数は1971年～74年の第2次ベビーブーム以降減少傾向にあり、2016年（97万7,242人）に100万人を割り込み、その後3年間で10万人以上少くなり、1899年の統計開始以降最少を更新している。

少子化の要因は結婚問題をはじめ仕事と子育ての両立等いろいろ考えられるが、中でも若い女性の人数が減少していることが挙げられている。総務省の統計では昨年7月時点の25歳～39歳の女性は、前年同月比で約22万人少なかったのである。

また、1人の女性が生涯に産む子どもの推計数を示す「合計特殊出生率」は、2016年から下落傾向にあり、2018年には前年から0.01ポイント減の「1.42」であった。

我が国で少子化が注目されたのは今から約30年前であった。当時前年の「合計特殊出生率」が「1.57」と過去最低を更新したことがわかり、1994年に政府がまとめた「エンゼルプラン」では仕事と育児の両立支援、保育サービスの充実をうたっていた。しかしその後も出生数の減少が続き2013年に「待機児童解消加速化プラン」を掲げたが、働く女性の急増でニーズも増加し実現できず2020年度末まで先送りされている。

また、昨年10月からは新たな少子化対策として主に3歳～5歳児を対象とした幼児教育・保育の無償化が始まったところである。

出生数が減少すれば将来への労働力をはじめ、社会保障制度等の支え手である現役世代の減少を招くこととなり、年金や介護・医療制度の維持が困難となる可能性があるなど経済や社会が衰退すると云われており、政府は結婚して子どもを望む人の希望がかなった場合の出生率を「1.8」として、2025年度までの実現を目指している。

政府は現在の少子化の現象、そしてもう一方の高齢化の増高等による諸問題を「国難」と強調し、対策に取組む姿勢を示しているところであるが、困難を克服し社会全体で結婚・出産・子育て等を支える総合的な制度の構築を望みたい。

根本正顕彰会の展示に当たって

根本正顕彰会



(根本正)

当顕彰会は、令和元年の今年、発足
23年目を迎えました。この間、「偉大
な先人根本正を顕彰し、郷土愛を高め、
生涯学習、文化・教育、福祉の向上に
寄与する」ことを目的に、調査研究や

普及活動などを進めています。

その一環として、那珂市中央公民館の「公民館まつり」
に毎年参加し、活動内容を展示発表しております。

今年度は、これまで①総会・公開講演会 ②第1回公
開講座（第2回は来年2月） ③根本正・宮本逸三顕彰
フェスティバル ④根本正ゆかりの地を訪ねる旅
⑤『会報』第91号の発行を、開催・実施してきました。

ここでは、①～⑤の活動内容の概要を展示紹介し、多く
の方々に根本正顕彰会の存在をご承知いただくとともに、
根本正についてのご理解をより深めていただけましたら
幸甚に存じます。

根本正顕彰会22年の歩み(略表)

年度	事項
平成9年度	顕彰会設立総会
平成10年度	「根本正先生生誕地」碑建立 展示会 なかいきいきフェスタ「根本正の素顔」 第1回 ゆかりの地を訪ねる旅 「東京・青山靈園ほか」
平成11年度	展示会 「根本正の前半生一衆議院議員になるまで」 第2回 ゆかりの地を訪ねる旅 「米国・バーモンド大学ほか」
平成12年度	展示会 第1回那珂町文化祭 「政治家根本正の活動」、「根本正をめぐる政治家群像」
平成13年度	根本正生誕150周年事業(中央公民館) 記念式典・シンポジウム・顕彰碑建立。資料展示 記念誌「根本正の生涯」・マンガ「根本正の生涯」発行 ビデオ制作「根本正の生涯」・「不屈の政治家根本正」 展示会 第2回那珂町文化祭 「根本正と今日的課題」
平成14年度	展示会 第3回那珂町文化祭 「根本正と未成年者喫煙禁止法」 第3回 ゆかりの地を訪ねる旅 「水郡線・塙方面」
平成15年度	展示会 「根本正没後70年記念」(県立図書館) 展示会 第4回那珂町文化祭 「根本正と未成年者飲酒禁止法」 第4回 ゆかりの地を訪ねる旅 「里美村豊田天功関係・那珂町」
平成16年度	展示会 「根本正の精神と業績」(茨城女子短期大学) 展示会 第5回那珂町文化祭 「女性の地位向上と根本正・徳子夫人」 第5回 ゆかりの地を訪ねる旅 「ひたちなか市・つくば市」
平成17年度	ブラジル県人会との交流(中央公民館・根本生家・墓所) 第1回 公民館まつり 2005 「根本正と教育・禁煙」 第6回 ゆかりの地を訪ねる旅 「東海村方面」
平成18年度	「まなびビア2006いばらき」への参加 (笠松運動公園・体験教室、県立図書館・シンポジウム) 展示会 第2回公民館まつり 2006 「水郡線全通まで」 第7回 ゆかりの地を訪ねる旅 「横利根閘門・佐原市」
平成19年度	展示会 第3回公民館まつり 2007 「水郡線・未成年者禁酒禁煙・10周年の歩み」 第8回 ゆかりの地を訪ねる旅 「横浜市、横浜指路教会ほか」
平成20年度	『不屈の政治家根本正伝』刊行 (H20. 7月) 第9回 ゆかりの地を訪ねる旅 (高萩市方面) 展示会 第4回公民館まつり 2008「根本正とブラジル移民」
平成21年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターごだい) 第10回 ゆかりの地を訪ねる旅 「東京・青山靈園」 展示会 第5回公民館まつり 2009「根本正と高層気象観測所」
平成22年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンター よしの) 第11回 ゆかりの地を訪ねる旅 「田中正造記念館(館林市)ほか」 展示会 第6回公民館まつり 2010「根本正と教育」
平成23年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターよこぼり) 第12回 ゆかりの地を訪ねる旅(東京・憲政記念館、芝増上寺ほか) 展示会 第7回公民館まつり 2011「ヘボン塾で学んだ人達」
平成24年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市瓜連 らぼーる) 第13回 ゆかりの地を訪ねる旅(横浜方面) 展示会 第8回公民館まつり 2012「根本正とアメリカ留学」
平成25年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 大子町文化福祉会「まいん」) 第14回 ゆかりの地を訪ねる旅(東京 谷中墓地他) 展示会 第9回公民館まつり 2013「欧米貧児出世美談」
平成26年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市中央公民館) 展示会 第10回公民館まつり 2014「水郡線全通80周年記念・水郡線の歴史と展望」 第15回ゆかりの地を訪ねる旅(水郡線、貸切バス利用一大子、石川、棚倉、塙町方面)
平成27年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターごだい) 第16回ゆかりの地を訪ねる旅(華蔵院・高層気象観測所・筑波宇宙センターなど) 展示会 第11回公民館まつり 2015「根本正を育んだふるさと五台」 『会報80号発行記念特集号』『会報』第81号発行
平成28年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターよしの) 第17回ゆかりの地を訪ねる旅(根本正生家、常磐共有墓地、豊田天功屋敷跡、常磐神社、 旧水戸城周辺めぐり、弘道館など那珂市、水戸市内) :展示会 第12回公民館まつり 「女性の地位向上と矯風会」戸多まつり参加(会場 旧戸多小学校(校舎、体育館、校庭))
平成29年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 木崎交流センター) 第18回ゆかりの地を訪ねる旅(御岩神社、日鉱記念館、佐川伊豫之介顕徳碑、 佐川伊豫之介生家跡地及び墓地、豊田天功銅像) :展示会 第13回公民館まつり 「根本正が学んだ塾・アメリカ留学」
平成30年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 総合センターらぼーる) 第19回ゆかりの地を訪ねる旅(戸定邸(松戸市)、旧取手本陣染野家(取手市)、横利根閘門(稻敷市)) 展示会 第14回公民館まつり 明治維新150年記念「明治・大正時代に輝いた根本 正の生涯」
令和元年度	「根本正」顕彰フェスティバル(会場 那珂市 ふれあいセンターよこぼり) 第20回ゆかりの地を訪ねる旅(栃木県栃木市、佐野市、渡良瀬遊水地) 展示会 第15回公民館まつり 年間活動の紹介

会員75名(平成31年4月1日現在)。年間活動状況一講演会 1回。公開講座 2回。

顕彰フェスティバル 1回、公民館まつり展示 1回、ゆかりの地を訪ねる旅 1回、『会報』発行 3回、
ホームページ開設(<http://nemotosyo.secret.jp/>)

総会及び公開講演会

1. 総会

新たな元号となった令和元年度の総会が、令和元年5月19日に那珂市中央公民館で開催された。

前年度の事業報告、決算報告、続いて今年度の事業計画、予算について審議が行なわれ夫々承認された。続いて役員改選が行なわれ新会長に増子輝雄前副会長が選出された。その他役員の一部に異動があった。

2. 公開講演会

上記の総会終了後次のとおり公開講演会が開催された。

演題 = 根本 正と学生野球・幻の甲子園

講師 = 根本正顕彰会会长 増子輝雄氏

(講演要旨)

教育の充実強化、また青少年の健全育成に取組んだ根本 正、そして明治期にアメリカから伝來した野球が学生たちの心をとらえ目覚しい展開を示した。中でも中等学校(現在の高等学校)全国野球大会は1世紀を超える歴史を刻んでいる。

根本 正と野球を直接結びつくものは見い出せないが、野球に取組む学生の精神と、根本 正の教育・青少年健全育成に取組む精神は共通していたのではないかと考えられる。

講演では野球の伝来から、甲子園球場を舞台とした高校野球の歴史等について解説された。長い高校野球の歴史の中で特筆すべきこととして、戦時中で5年間中断されたが、「戦意高揚」として昭和17年度は國の指導により、別途全国大会が甲子園球場で開催された。しかし記録に残らない大会となり「幻の甲子園」といわれている。

(この大会に本県からは関東大会を制した水戸商業が出場した)



公開講座(令和元年度第1回)令和元年6月23日

国会の中の根本正

M31.3(1898年)第5回総選挙に初当選

同年6月「国民教育授業料全廃の建議案」提出も
国会解散のため討議されなかった。



根本正が登院した第2次仮議事堂

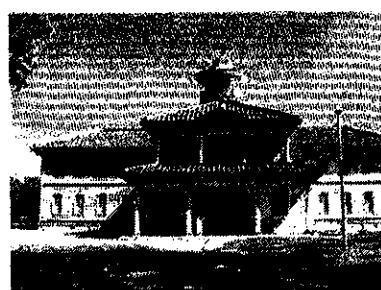
M32.1.31 「国民教育授業料全廃の建議案」を政府に再度提出し可決成立したが、授業料無償化する財源は未定だった。

根本正の発言 勅語の中に「咸其徳を一にせんことを庶う」とあって、咸其徳を一にせんとすれば貧民の子弟も自由に普通教育を修めしむる途がなければならぬと思うので國家を富強に致すには、実に此の勅語に基づきて億兆心を一に其の徳一にするにあります。

M32.2.18 小学校教育費国庫補助法案を提出後、可決成立したが運用しにくい点があった。

M33.2.6 市町村立小学校教育費国庫補助法案を政府が提出
「小学校教育國庫補助法」と「小学校教員年功加俸
國庫補助法」を合併した法が成立した。

これで、財源制度が整備され、義務教育の無償制が確立し就学率が95.6%に向上した。



明治時代の水海道小学校

M32.12.6 「幼年者喫煙禁止法案」を提出し審議した結果

M32.12.19 「未成年者喫煙禁止法」として成立した。

根本正の発言 煙草と言うものは阿片の如く「ナコチック」及「ニコチン」を含有するのでありますて、若し此の如き神経を麻痺し知覚を遲鈍にするものを、幼少の子供が喫しますれば、日本帝国人民の元気を消滅するに至る訳であります。
國是として廢さねばならぬことでござります。



1899年煙草を買うと花札のおまけつき

M41.3.14 (日立鉱山) 鉛毒に関する質問趣意書を提出



1905年の赤沢銅山(後の日立鉱山)

根本正の発言 日立村に在りますところの銅山に於きましては、近來非常なる鉛毒を蒙って居る…これに対して政府は此鉛業人に何故に此除害工事と言うものは命じないか…明治38年8月に人民が除害工事をして貰いたいと言うことを申請した、所謂出願したけれども、其時分の政府は未だ審が及ばぬから其の除害工事をするに及ばないと言って其請願を却下した…栃木県の谷中村の二の舞を履まんければならぬと言うような有様であります。慎重に調査して速に之に対する答弁あらんことを望みます。

公開講座「平成30年度第2回」平成31年2月25日

小野崎氏と根本氏

1 藤原 秀郷 (小野崎氏と根本氏の遠祖)

(鎌足～不比等～房前～藤原北家魚名流)

平安時代中期の貴族、豪族、武将

室町時代「俵藤太絵巻」が完成し、近江三上山の百足退治の伝説で有名。平将門の追討の功により従四位下に昇り、下野、武藏、二ヶ国の国司と鎮守府將軍に叙せられ、勢力を拡大、源氏、平氏、と並ぶ多くの家系を排出した。

2 小野崎氏

藤原秀郷——公道—道延（太田大夫）—道成（佐都荒大夫）—道盛（小野崎新大夫）—道長（小野崎）。道延の弟道直（河辺大夫）那珂氏、江戸氏の祖。

平安末期、下野国より常陸太田郷に進出した5世公道の子道延が1109年（天仁2年）久慈郡太田荘に築城し、太田大夫と称した。道成の子道盛が1150年に瑞竜小野郷に進出、その先端部分に進出築城、小野崎大夫または新大夫と称した。後に道長（小野崎）が佐竹氏に臣従した。

（1）小野崎三家

○山尾小野崎氏（宗家）

14世紀前半、瑞竜小野崎から十王友部へ山直城、山能城といわれた。後に佐竹家から養子（宣政）が入る。山城守を名乗る。

○額田小野崎家

1423年（応永30年）頃小野崎道重が額田氏の名跡を継ぎ額田城主となる。1590年（天正18年）佐竹義宣に攻められ落城し、額田昭通は伊達政宗を頼って仙台に落ち延びた。

○石神小野崎家

15世紀末小野崎通老が、石神350貫、河合350貫の加増を受け久慈川の水運権を与えられた。石神城主代々越前守を名乗る。

3 根本氏

久慈郡根本（常陸太田）発祥。藤原北家秀郷、小野崎通成の次男盛通が根本氏を称して居住し以降18代にわたり在館した。1602年秋田転封に根本為通、為行らが随行し、分家も含めて8家の家系が小野崎分流となり秋田藩士として続いた。根本正の祖、根本道基、1578年那珂市東木倉へ移る。

海老根 敬記

令和元年 根本正・宮本逸三顕彰フェスティバル

令和元年8月25日 ふれあいセンターよこぼり

○ 主催者あいさつ 増子輝雄会長

本会の目的・あゆみとフェスティバルについての概略を述べ、今回開催にあたっての神崎、額田両地区のまちづくり委員会の協力および多数の参加に感謝した。

○ 来賓あいさつ 先崎光市長（代理：宮本俊美副市長）、遠藤実県議会議員

当会の今までの活動への敬意、県内外はもちろん世界に根本正を知っていただく必要性を述べられ、さらに那珂市教育の根本方針「根本正の生き方に学ぶ」実現における当会の役割とさらなる発展を期待する旨のごあいさつをいただいた。

○ 講演

第一部「根本正と宮本逸三の生涯」（増子輝雄会長）

両人について同じ時間での講演であったが、ここでは宮本逸三部分を主に記載する。

<根本正>

「踏まれても根強く忍べ路芝の
やがて花咲く春をこそまで」

- | | |
|----------|--------|
| ①生い立ち | ②水戸へ出る |
| ③東京へ出発 | ④米国留学 |
| ⑤政治家を目指す | |
| ⑥海外移民地調査 | |
| ⑦国政での活躍 | ⑧政界引退 |



<宮本逸三>

「積善の家に餘慶あり」（『易經』）

（講演する増子輝雄会長）

- | | |
|--|--|
| ①生い立ち… 1859年生まれ、18歳鴻巣村・宮本家宮本逸平の娘波留の婿養子に | |
| ②県議会議員から衆議院議員へ… 1885年27歳から20年間県議会議員、その間村長11年 | |
| 1917年・1924年の総選挙で衆議院議員、立憲政友会茨城県支部長として活躍 | |
| ③那珂郡役所の新築問題…新築をめぐり湊町支持派を押させて菅谷新築に尽力・実現 | |
| ④水郡線敷設へ…国の政権交代もからみ難航した鉄道敷設に尽力 鴻巣駅及び周辺道路 | |
| 用地に土地を寄進 建設費用にも多額の寄付 | |
| ⑤水戸近郊の交通網の整備…水浜電車（水戸から磯浜一8年間は湊町まで）開通を実現 | |
| ⑥政治家・実業家として… 1928年に衆議院議員引退までの長年にわたり、②～⑤をはじめ地域の振興発展に尽力 実業家としても産業の振興に多大の貢献 | |

<二人の共通点>

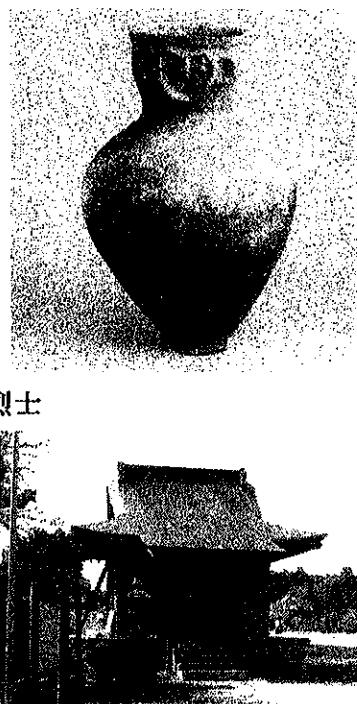
- | | |
|---|--|
| ① 立志が確かである。将来に向かっての目標が早くから定まっていた。 | |
| ② 政治家となって社会の問題に積極的に関わり、それらの解決に果敢に挑んだ。 | |
| ③ 交通機関が社会の発展に寄与する力の大なること、重要なことを認識し、その整備に精力を尽くし、私財を投げ打つほどの情熱をもやした。 | |
| ④ 郷土への愛情に満ち満ちていた。 | |
| ⑤ 自己保身や自己の利益より社会の利益、将来のためにとの信念、視野に立っていた。 | |

神崎地区・額田地区の歴史的遺産

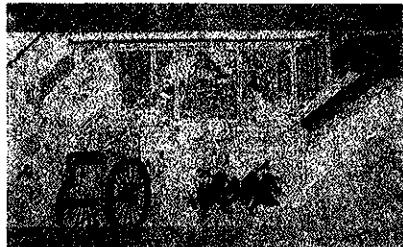
1 神崎地区

- ① 人面付き土器 (海後遺跡：弥生時代、写真)

洗骨再葬骨壺。死者への畏敬の念を見る



- ② 上宮寺 (松原) (鎌倉時代・浄土真宗)



「聖徳太子絵伝」

(元亨元年 1321；国重文、写真部分)

16世紀末の石山合戦の功績に与えられた

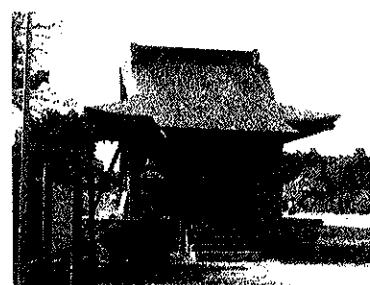
- ③ 三嶋神社 (海後) スダ椎樹叢林

神官の海後嵯峨之介は桜田門外の変烈士

- ④ 発汗地蔵尊 (杉) (江戸時代中期；安産子育て信仰)

- ⑤ 太子堂 (堤、写真)

(江戸時代前期に大正院廢寺となり地区で祭祀、聖徳太子信仰)



2 額田地区



- ① 額田：鹿嶋八幡神社；額田まつり

江戸時代後期の見事な浮彫刻を施した山車群は壮観
扁額「額田神宮」は会沢正志斎筆



- ② 額田城跡 (鎌倉時代～戦国時代)

佐竹系額田氏 10代 170年

小野崎系額田氏 7代 165年

堀と土塁が残る雄大な城郭跡

- ③ 鈴木家住宅 (徳川光圀の養女万姫の嫁ぎ先)



- ④ 阿弥陀寺 (浄土真宗)・

シダレザクラ

(寺伝；徳川光圀お手植え)



いんじょうじ

- ⑤ 引接寺 (浄土宗)

埋葬者「ほらふきたつつい」

- ⑥ 鰐勝院 (曹洞宗)

額田佐竹氏の菩提寺

- ⑦ 「ナカマチクジラ」

化石 (1,100 万年前) 出土

- ⑧ 民廬遮那寺 (真言宗)

・額田城主小野崎普通 (義通)

らが明応 6 年 (1497) に寄進

した「大般若經」写經 600

巻 (茨城県指定文化財)

- ⑨ 芭蕉句碑 (寛政 5 年 : 1793、有ヶ池端の岸桂寺跡下)

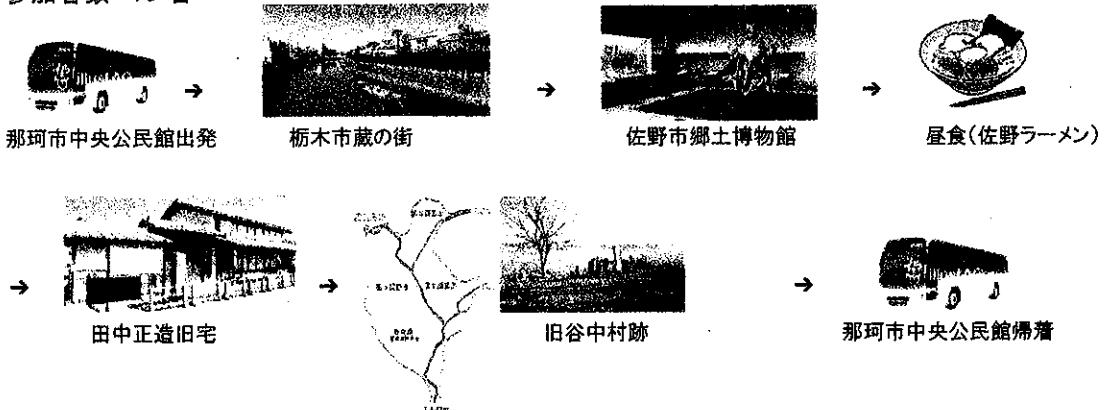
第20回「根本正」ゆかりの地を訪ねる旅～根本正と田中正造～

日時 令和元年9月8日(日)

行先 栃木市・佐野市・渡良瀬遊水地

交通 大型観光バス

参加者数 46名



根本正と田中正造との関係

明治23年(1890) 田中正造、第1回衆議院議員総選挙に当選 第1回帝国議会招集

渡良瀬川大洪水、沿岸の鉛毒被害が大問題となる

明治24年(1891) 田中正造、第2回帝国議会で「足尾銅山鉛毒加害者之儀ニ付質問書」を提出 足尾銅山、全国一の産銅量

明治31年(1898) 根本正、第5回総選挙に自由党から立候補し初当選する

明治32年(1899) 根本正ら「幼者喫煙禁止法案」第14回議会に提出する

12月14日の委員会で、田中正造が未成年者喫煙反対演説



20歳になって軍人になった時に煙草を吸う癖があると戦いに出て煙草がない時に挫けるので煙草を吸う兵隊は全く役に立たないそうです。第一邪魔になる。だから軍人には煙草を吸わない癖をつけたい。20歳まで吸わないと、兵隊に入った時に煙草を吸わないで居るかも知れない。「しばらく小学生に禁止して、明くる年を待ってそろそろ進めていきたい」と云う考えもありまして、大いに迷っております。激変を与えるのも、如何なものかと思うのです。

第13回議会の時、根本君と席を隣にした。氣味が悪い。後ち、根本君が信者(キリスト教徒)ということを聞きてより、神様の側らにいる心地して、終に煙草をやめました。

明治34年(1901) 田中正造、衆議院議員を辞職

明治34年(1901)12月10日前午11時過ぎ、明治天皇に鉛毒被害を直訴する。即時に拘束され、麹町警察署に連行され尋問を受ける。午後3時過ぎ、根本正は真っ先に駆けつけ慰問する。

根本正顕彰会令和元年度第2回公開講座(報告)

- 1 日 時 令和2年2月23日(日) 13:30 ~ 15:30
2 会 場 那珂市中央公民館 2階 視聴覚室
3 講 師 副会長 山田正巳氏
4 演 題 現代に息づく根本正
5 内 容 整理されたパワーポイントを活用(資料は別紙参照)
① 明治維新PART1
(根本正を中心に、根本正のアイデンティティ、根本正は言う、自助の精神)
② 戦前PART1(血盟団事件、5.15事件、2.26事件)
③ 戦後PART1(終戦後~高度経済成長期)
高度経済成長で失われたもの、産業化
④ 戦後PART2(戦後20年から7年間・GHQによる占領期間を中心に)
財閥解体、農地改革、婦人参政権、教育改革、家制度の否定
⑤ 現代PART1(核家族化、家庭崩壊、無縁社会、有縁社会)
⑥ 現代PART2(スマート社会の問題点、未成年者の大麻摘発急増)

増子輝雄会長および先崎光那珂市長のあいさつや関守那珂市議会議員の紹介があり、講演に入った。大要は、以下のようなである。

根本正の生涯の功績と人生観を確認。明治維新後の社会の変化通史的に概観。根底に貧困の問題がある。戦後の社会の変化は、米国による占領政策が功を奏している。日本人の団結の基礎であった「神道」関係、「家」の破壊・壊滅は成果を揚げた。根本正が歩み、目指し掲げた理想像は今の深刻な問題点として息づいている。これらの解決が求められているのである。



(根本正の理想を説く山田副会長)

〈質疑応答〉

- ① 根本正が「禁酒村」を目指したことは本当か。 東木倉村全体が禁酒村となりうることを願った書簡を本家の甥に送っている。
- ② 根本正の理想実現のためには、現在どのような対策が考えられるか。 コミュニティの発展や「家」の復活には、「まつり」の再興や「ボランティア活動」の推進が期待される。
- ③ 日本は平和にどっぷりつかっているが、世界の現状は民族紛争や国家の対立が絶えない。 根本正の目指した世界平和についても、しっかり考えていかなければなるまい。

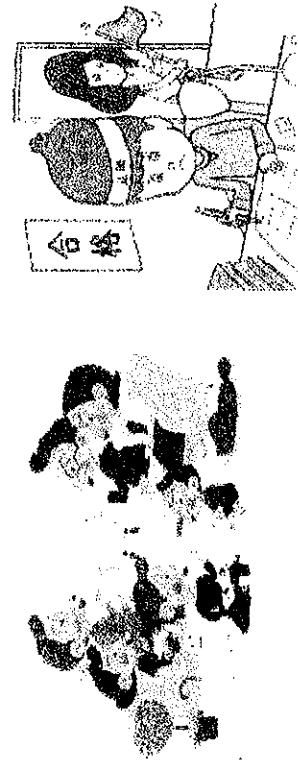


根本正顕彰会
令和元年度 第2回 公開講座

現代に息づく根本正

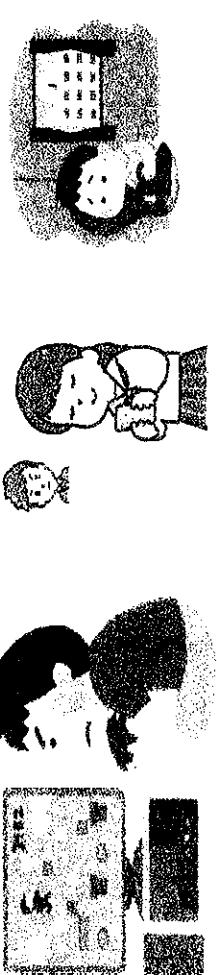
現代Part 1

1 核家族化



- ・親は共稼ぎ・子供は塾通い・一家団欒親子の会話が少ない
- ・忙しくて、すれ違い・相談相手がない・ネットゲーム、SNS

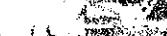
2 家庭崩壊



- ・引きこもり、不登校
- ・SNS等による出会い系サイトによる被害児童の増加

3 無縁社会（人々の繋がりが希薄な社会）

- ・地縁・血縁・知縁が機能しなくなった社会
- ▶孤独死、児童虐待、DV、離婚、貧困



4 有縁社会

- ・共助によるコミュニティの再編

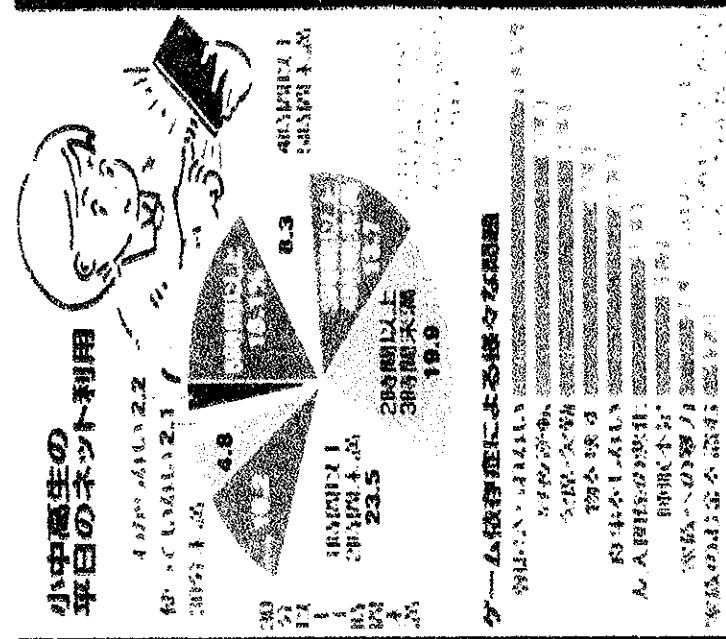


現代PART 2

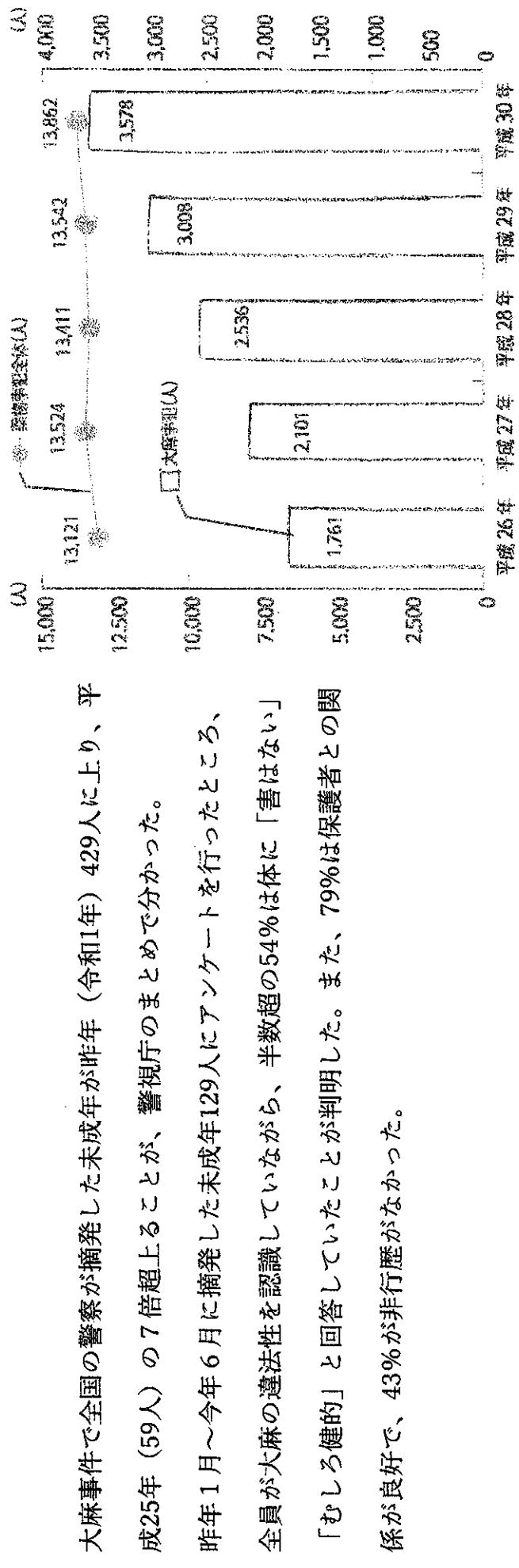
1階居間に女児スマオSIMカード抜かれる 監禁容疑でも送検へ>>>大阪府警

大阪住吉区の小学6年女児（12）が行方不明となり、栃木県内で保護された事件で、同県小山市の伊藤仁士容疑者（35）＝の自宅1階居間にから女児のスマートフォンが押収されたことが24日、大阪府警への取材で分かった。-----中略-----

一方、茨城県警によると、容疑者宅から保護された少女（15）は、同県内に住む中学生だったことが判明。今年6月、家族から行方不明届が出されており、県警は女子中学生該当容疑者と知り合った経緯などを調べている。（時事通信社11/24）



未成年の大麻摘発、5年で7倍超に急増 SNSで密売人との接触容易に



戦後PART 1（終戦後～高度経済成長期）



- 1945（昭和20年）ポツダム宣言受託絶対的貧困（みんなが貧困）
- 1950（昭和25年）朝鮮戦争（特需）
- 1956（昭和30年）経済白書（もはや戦後ではない）
- 1959（昭和34年）日米安保闘争（ハガチー事件・樺美智子さんの死）
- 1986（昭和61年）バブル景気始まる
- 1991（平成3年）ジユリアナ東京ブーム バブル経済終盤
ソ連崩壊バブル崩壊（失われた20年）相対的貧困
- 2005（平成17年）戦後60年総人口の減少始まる

高度経済成長で失われたもの（農業国から工業国へ）

稻作中心の村・共同体（戦前まで）



手作業中心だった昔の稲作は、近隣・親戚の助け（結など）を借り、一方
月もかかった。

農道・用水路の整備をはじめ、お葬式・結婚式まで生活のあらゆる面が近
隣や親戚の人たちの合力・協働によって成り立っていた。

農村社会（共同体）では「合力・協働」が行われ人間関係が訓練され
自ずと「協調性」「責任感」「礼節」が身につき、子孫に伝えられた。
→我慢・忍耐

産業化（農業から工業へ）

△過疎化と都市化=地域社会の本質の変化
全國各地の農村、漁村から工場のある都市へ
要素性を知らない人同士が、何の協働も連帯もないまま
匿名で暮らすような地域社会→都市化

△農業に根ざした価値感の衰え、協働の機会の減少
→協調性・責任感・礼節が省みられなくなる

△新しい情報や知識の絶えざる普及
→テレビの普及に伴うマス・メディアの影響拡大

△生き方、価値観の多様化
様々な職業に就くことができるようになったため、
個々の生活スタイル、価値観が台頭し、利害関係の対立が生じ始める

△物質的に豊かな時代の到来



戦後PART 2 (昭和20年から7年間・GHQによる占領期間を中心には)

財閥解体・農地改革・婦人参政権・教育改革

GHQは、日本人の強さの秘密は、天皇を中心とした強固な共同体、それを維持しているのが「国家神道」であると考え、

神社を中心とした伝統的な地域共同体の破壊

神道指令を発し公的な財政支援、学校での神道に関する教育や公務員の神道儀式の参加が禁止される。→教育基本法に引き継がれる。



戦前までの地域共同体は、その中に神社があり、その年の豊作を祈る行事から、実りに感謝する秋祭りまで的一年のサイクルを通じて天地の恵みと神々への感謝という宗教的情操と氏神を中心として精神的結束を固めた。子供たちにとっても境内は絶好の遊び場であり、お祭りへの参加は強烈な印象とともに、その後の人生に刻まれることになった。

家制度の否定（民法改正）

改正前…戸主は家の統率者として、家族に対し居所指定権、婚姻及び縁組の同意権などが認められていた。

改正後…家制度の否定

※家族・親族を纏めていく力の否定

先祖代々受け継いできた「家」を戸主の統率の下、家族が結束して次代に伝えていこうという家制度は、統率者不在のまま、夫婦親子が共同生活を営む場へと変質した。

※入籍

現代においても、芸能人や一般の若者たちが婚姻届けを提出したこと、「このたび入籍しました」と言うが、これは間違いである。

入籍とは、戦前の旧民法下において、女性が嫁ぐ場合、夫の籍がある戸籍（筆頭者は戸主…夫の父親など）に入ることであり、結婚しても夫婦の戸籍を新たに作るものではなかった。

現在の民法では、結婚すれば夫・妻ともそれまでの戸籍から抜け、夫婦だけの新戸籍を作る制度になった。現民法で入籍の言葉が使われているのは、養子縁組の届出だけである。

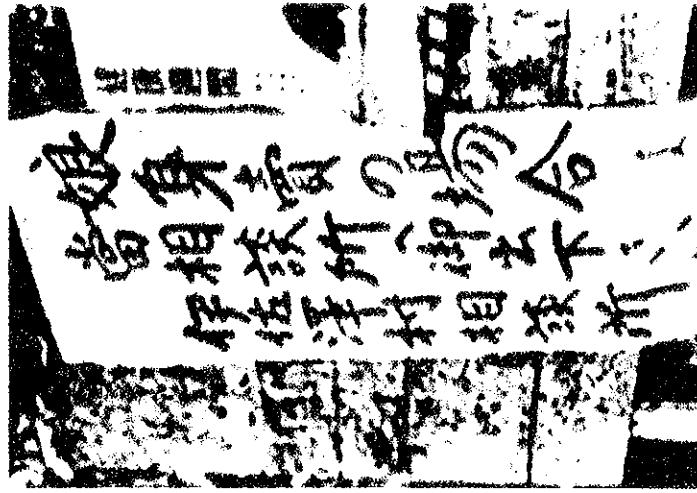


戦前PART1（血盟団事件・5.15事件、2.26事件）

戦前の格差社会は、農村と都会 低学歴と高学歴 財閥と中小企業 大地主と小作農などの問題、現在の格差社会では就職難ワーキングプア社会からの孤立など共通する点が多く見受けられる。

第一次世界大戦が終結すると、その反動不況が日本を襲い（大正9年・1920年）その後もワシントン海軍軍縮条約による重工業の不振、そして関東大震災（大正12年・1923年）が起り、昭和初期にかけては深刻な不況が続いていた。特に地方や農村部の興廢は、ひどかった。（三つの事件に共通）

さらに、冷害による凶作と昭和三陸地震（1933）まで重なり東北地方の農村部では、生活のためやむを得ず娘を人買いに売り、それでも食料が足りず欠食児童が多発する事態であった。



- 血盟団事件（1932年、昭和7年2月～3月）宗教的自己犠牲によるテロ（一人一殺）
財閥、政党、特權階級の此の野合が非常に密接な関係権力と金力の結ばれるところ（黄金万能資本主義）
- カリスマ的な井上日昭（大洗町の護国堂を拠点に）と前浜小（現阿字ヶ浦小）の教員であった古内英司
とその教え子たち
 - 東京帝大グループ京都帝大グループ----国家間の格差、国家改造

地方の下層社会の青年と帝國大のエリート学生がなぜ行動を共に行動したか

- ※同時期の動きとして
- ・宮沢賢治 「グスコープドリの伝記」1932年---宗教的犠牲によるユートピア
 - ・橘孝三郎 愛郷塾（農本主義、農村生活に文化芸術を持ち込む）
 - ・武者小路実篤 新しい村
 - ・根本正 禁酒村

5.15事件(1932年、昭和7年5月)

- ・一部の陸軍・海軍の革新派青年将校が主導
- ・橘孝三郎が首謀者と見なされた

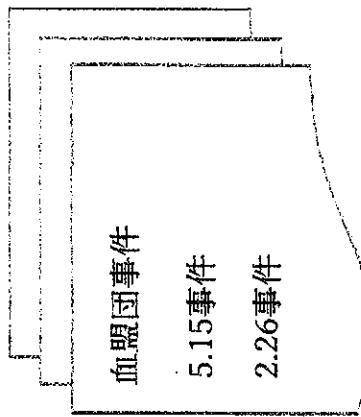
2.26事件(1936、昭和11年)

- ・大東亜戦争



桜田門外の変

天狗・諸生の乱



三島由紀夫と盾の会

明治維新PART1（根本正を中心的に）

- 1863(文久3)年 豊田天功の家僕となる
- 1864(元治1)年 豊田天功死去、藤田小四郎ら筑波挙兵
- 1865(慶応1)年 豊田小太郎京都で暗殺
- ！ 武田耕雲斎、藤田小四郎ら352人処刑
- 1867(慶応3)年 水戸藩南御郡方の役人となる
- ！ 大政奉還
- 1871(明治4)年 天狗・諸生党の内ゲバを続ける水戸藩（時代の魁）に見切りをつけ
上京、三叉学舎（時代の魁）に学ぶ

根本正のアイデンティティ（自分は何者であるか、自覚の芽生え、葛藤）

気付き

現在の生活環境への煩悶……怨念だけで、先の見えない内ゲバからの脱却…（新旧価値観の大転換の時、内心こんな狭いところで燐っていたのでは、将来名を成すことはできない：加藤純二著、根本正伝より）

感動

時計とマッチ、処刑を見て驚く……一体この器械はどんな人が造ったのかと聞けば、これは英学という横文字を話す国の人気が製造したい返事で、---

立志・行動

このまま水戸にいては新しい学問はできないと思った正は、役所にも家の両親にも断らず姿を消した。反対されることが分かったからである。彼は密かに吉田神社に寄り、両親に託びて氏神様に誓った。

「男兒志を立てて郷閥を出ず 学若じ成らずんば死すとも還らず
骨を埋むる何ぞ期せん 墓の地人間到る処青山有り」

根本正は言う

「今日に於いて為すべきことは今日為すべし、決して明日に延ばすなかれ」「孝道は明日にあらず、今日にあり、未来にあらずして、現在にあり、若し明日にあり、来月にありとして子（が親を）養わんと欲するときは、既に親（は）またざるべし、勉強するまた然り、人はその日の事をその日に為すと同時に必要なのは忍耐精神である」

(茨城教育295号)



25 どのような貧困・逆境に遭遇しそうが、他人に頼らざ自分の力で、自分の未来を切り開いてゆくことの大切さを述べた。



夏の日に田草となる苦を思ひなば やすき勤めの吾身をぞ恥

自助の精神

出会い-----中村正直（同人社に学び、キリスト教（メソジス派）入信する）

- ◆未成年者喫煙禁止法
- ◆未成年者飲酒禁止法

国民の租税（税金）で小学校の児童の教育が行われるので、酒や煙草を飲み不良少年となったり、生命を短く或いは放蕩者できたりば折角他人の子どもの教育費を出したのが無益に使用された結果となります。（根本正「教育と禁酒」）

踏まれても 根強く忍べ 道芝のやがて花咲く 春をここまで

安學雜誌第二百二十一號

也。此に於てか詩仙は一種の宗教家ありと云ふべし、好し所云る宗教家にあらずとするも必らずや宗教的ならざるを得ず、宗教を離るゝの詩に眞大の詩なし。

英國に在ては、スペンサー、ドライデン、ボーブ、グレー、ゴ

ーレドスミス、クーパー、ペルソス、コレリッヂ、スカット、カムブベル、ムーア、バイロン、シェーン、キーツの詩。日耳蔓に在てはクロップストック、レッシュング、シーレル、アーランド、ルツタルト、ハインの詩。伊太利に在ては、ヒリカシア、アルフハイエリ、マンゾン、レーベルデの詩。佛蘭西に在ては、ラシーン、ボイロウ、ボルテア、チニシア、ベラングル、ラマルテン、ムツセット、ビクトルエゴの詩、或は華麗、或は細巧、或は深刻、或は沈痛、或は可憐罪あり、或は雄壯厚大、或は穿鑿直截なる、一々優る所多し、然れども獨り、ダンテー、シェクスピア、ミルトン、ナザールス、モリエル、ケーテを別にして之を其一階高段の地に置く所以のものは、所云る宗教的なるを否らざると、其の最高最大の理に觸れ得たると得ざるとの差あるが爲めのみ。

吾人此に至りて、詩は何故に詠はるべき乎、詠ふとの何故に重大なる乎の理を知り、亦た詩仙の當に何如にあるべく、詩

歌の當に何如にあるべき乎を知れり。而して后ち我國今日の詩歌を顧慮し來れば、慨歎多々止む時あし。



論 説

在布哇受洗の始末（上）

安藤 太郎 君 演述

私が今日皆様の御耳を煩はして申上げ様といふ話は私が先年布哇國に於て「キリスト」信者に成りました次第であり升元より近來は世間に「キリスト」信者が隨分澤山にあり升から私如きが信者に成りましたとて格別珍重もない譯であり升がしかし私を善く御承知の御方はあの男が「キリスト」信者に成つたとは實に驚き入つた次第だ何んでも職掌上一時の方便か左なくば世間にまゝある不平か又は物好きから宗教を玩弄するの類であらぶなど、惡口を御きゝにある人達も隨分ありますし又是迄世間一般の無神論者に「キリスト」教を説き升と其教理を善くも聞きませんて反對論を唱へ升座々が誠に善く私未信者の時と同感であり升からはや彼やに付何か人様の御参考にもと存じ一と通り御話し致しましよぶ元來私は是ぞと申學問も何もありませんが年が年ですから見まね聞かぢりて漢洋哲學の小理屈は隨分共に脳髄に染み込んで居り升上に品

號十一百二第二學雜誌

行の一條に至りましても肉體の慾情には兎角束縛を蒙り勝ちにて自己復讐などの嗜みは更に無之人物でしたから宗教類は一切不得意であり升内就中「キリスト」教は極々嫌でありました何故又そつ極嫌でしたかと申に種々原由もあり升が其重なる一は私は是迄久敷く海外に居りましたが其際歐米人が動どもすれば我々亞細亞人を指して偶像宗の人民と稱し自分達を「キリスト」教の國民と唱へ升處其實彼等の所謂偶像宗とは野蠻の異名で「キリスト」教とは開化の別號であり升から何分にも小癪に障つて溜りません殊に御承知の通り歐米人と申した處が中間には金や智恵こそ我々より澤山ありまして道德の點に至ましては隨分我輩の眼にも甚しいと見ゆる者もあり升のに夫等が無闇に「キリスト」へと唱へ升から愈益「キリスト」教が嫌に成りまして後には彼等より足下の宗旨は何んど尊ね升と何やら向ふ面が張り度成りまして平常不沙汰ある佛話を擧き出して拙者は眞宗と申一派の信者であるなど返第ですから宣教師等より宗教の勧めあとに與かり升のは惡寒の出るほど嫌でありまして一度でも勧をした人には最早二度で西面致し得せんとして今から考へて見升を實に可笑し

くあり升が凡そ文明の人間世界に何が不幸だと申して宣教師ほど不幸至極あ生涯はあり升まいと存じた位ですか餘は大概御推察が出来ましよふ然るに斯る耶穌嫌ひの私が如何なる次第より公然外國の寺院に於て洗禮を受け信者の一人と成りましたかと申に御承知の通り私には明治十九年布哇在勤の總領事を拜命いたし同地に赴き三ヶ年半餘も滞在致して居りましたが勿私の参りました頃にも既に我國の出稼人は三千人程度も居りまして其行狀はどふだと申に男子は飲酒に溺れ博奕に耽り又女子は種々の亂りがましき所行を致し行々は御國の御外聞にも相成る様か勢も見えまして何分捨置き難くありますから或は説諭を致したり又は布告を出したりして種々取締向に着手致して見ました處惡風は愈益增長致しまして如何とも致し方なく當惑を極めて居りました其の折柄米國桑港より基督宣教師で美山貴一と申人が參られまして數千人の出稼人の間を處々方々と駆け廻り熱心に風俗矯正の爲め說教致しました處が博奕打ち骨子を投げ出し酒飲みは「コップ」を打ち毀すなど不良の者共が一時に悔ひ改めまして其當坐は領事館の手數も餘程減りました位ですから流石耶穌嫌ひの私も是には實に辟易しまして此れ程迄にも「キリスト」教

女學雑誌第二百二十一號

と申者は國俗矯正の効能の有る物が成程愚民には至極宜しい
者だと始めて注意する氣に成りました即ち是が私の「キリスト
」信者に成りました原因でありました乍併此時はまだ俗
に申す贊成者丈けの事で信仰は擇善き聖詩をへて調べる氣が
出ませんでしたが右の美山氏も一と説教して直に桑港に
歸りました然るに其儘捨てた日には所謂一日之を暖めて十
かくま坐して不絶人民等に説教致させ十分に取締りの道を立
日之を冷やすの警で又候以前通りの亂暴に成り升は必定です
から何卒して不絶人民等に説教致させ十分に取締りの道を立
たいと存じ其筋の人々とも相談致しまして再び美山氏夫婦其
他の宣教師を米國より招き愈布哇の都ホノル、へ日本人の
基督教會堂を取立ました處そふ成つて見ると不思議な物で美
山氏が如何程説教が上手でも落語や軍談と違ひまして根が銘
々の好きな酒だの博奕だの止めろと申御談義の事ですから
後には聞手も自然足が遠くなる様子に見えましたゆえ是では
成らぬと存じ私は先達と相成り毎安息日には務めて會堂に
出席致し説教聽聞に及びましたが云はばほんの御附合一遍の
事ですから何分にも退屈至極でありました去り迎私が中途で
止めました夫れこそ聞手に差響きを起し升は必定ですから
此には甚當感致しました此折思ひ當りましたは善く是まで

我々が歐米士君子中宗教に熱心なる人を見ますと彼は政界だ
のは虚喝だと口癖に申した者でありましたが信者と申名
は其人が眞面目でなければ決して出来る者でないと申事を發
明致しました扱此困難の場合に際し段々考へて見ました處是
迄は例の怪力亂神を不語だの佛は夷狄の一才だと申儒者理
屈や又は歐洲の進化主義に化せられて所謂食はず嫌ひで新約
全書一遍の素讀も致さず唯一概に宗教と云へば不問に措きま
したが右は我ながら甚以て偏屈の至りて又風俗改良には至
極結構なる者と氣が付きあがら自身には更に之を研究せずし
て唯他人にのみ無闇に勧めるのも甚謂はれあき次第何ぞと
申すと愚民々々と一と口に申し升けれど私は其愚民と如何程
の相異があり升か僅に縦文字横文字の數を少々ばかり餘計に
心得て居る位の事にて善々穿鑿致したら其愚民殿に耻入るべ
き事柄が幾許あり升か分りません殊に愚民どころか歐米文明
諸國に於て上は王公より下庶人に至る迄十字架の下に誰一人
として膝折り屈め禮拜致さぬ者はありません尤も是は宗教上
から出た一遍の風俗丈けのことだと見ました處が彼等の内世界
に何人と指を屈する立派な學者大人達が熱心に尊信して居

り升ではないか又其上に文明諸國の歴史の根源も詩文の原由も法律の精神も就中道德の基本と云ふも盡く舊新兩約書より出たる趣は争ひ難き事實で何共以て不思議千万なる書物であり升から私共苟も泰西の文明開化を學び升る以上は此書物を是非共一と通りは謂て見ないでは相成るまこと存じ付きなししたからそこで漸く馬太傳の一章からボック読み始めました

たが先づ第一に耶蘇の系圖の片假名の澤山なるには頗る閉口致しましたるに續て「ヨセフ」の夢物語から東方の博士が星に

誘れて救主の降誕を尋ねに出掛けるなどの處は漢土古代の歴史中創業の天子などの降誕には板行で押したよみな極り文句

に誠に善く似て居り升から成程小し氣の利いた人間はいやがる筈だと考へながら先づく辛抱致して段々讀んで參り升ど

最早堪忍袋の緒が切れましたは耶蘇が舟に乗り後れて浪の上

を歩み又は五つのパンを以て五千人を養つたあの奇蹟で逆も聖書を我慢にも手に取る氣にならあく成りました實に其時嘆息致しましたは嗚呼惜しい事だもし此の馬鹿げた奇蹟さへ無ければ孰も修身齊家に必要ある教理の事ゆへ如何あ私ども

ひと通は素謂も出來そふあ者を扱もくと一時は總て中絶致

しめしめの去り由是も身を失ひしたる半途で止め

升のは何共殘念でありますし又一つには半分職掌とも可申場合に成つても居り升から種々勵考致した上で米人の或る宣教師に事の次第を話しまして聖書を讀む氣に成るに何か善き書物はあるまいかと尋ねましたら無名氏作で救魂の理論とする申しますか英語では(Philosophy of the plan of salvation)と云ふ一小冊を貸して與れました。(未完)

慈善事業に對する婦人の心得

六月廿五日東京警坡坂會堂に於てスペンチル氏の演説せられたるを三里長兵が譯述されたるもの、筆記なり。

今日慈善事業に就て御話を仕なればならん様になつたのは、大概皆様も御承知で御座いませう。けれ共之れは今の時に於て最も必要な事で御座いますから、皆様の御存知であるにも拘はらず私が此處で御話をする事になつたので御座います。

今日我々が此の東京の有様を見ても、又日本全國に就て考へても、食に餓へて死ぬる様な人々が澤山あるのであります。此の人々は何人であるかと云へば皆貴婦人方の兄弟姉妹であるが、其れ等の人々が斯くの如き不幸に陥つて居るのは眞に氣の毒ある事であります。既に貴婦人方の兄弟姉妹が斯く氣の毒なる境遇に陥つて居るのであるから、何人を云へども之を救ふの策を考へなければならんのである。乍併如何に之を考へました所が宣き法方が無いならば到底救ふ事は出來ない者で御座います。其れ故に私は今日此の貧民を救ふ方法に就て御話をする積りで御座います。乍併或る人は言ひます「如何に諸方に貧民が居るとも、一個人が往いて之を助けたならば其れで澤山であらう」と、けれ共其れでは力が別れて本統の良結果を奏する事は出來ない者である、其れ故に一つの組合を立て力を集めて大きな仕事を仕掛ければならん。而して若し其仕事を婦人がするならば一つの

論說

在布畦受洗の始末（中） 安藤太郎君演述

此書物は御承知の方もありましよが其論説は中々澤山ありまして今茲で一々申上げる譯には参りませんしかし其大意と申へ詰り基督の救へ何故我々人類に必要なるやの理由を説きましたる者で第一人間の宗教的の活物であるから何か拜ますに居られないと説いてありましたモーそふすると直に私の何を拜ますとも差支へ無いと申了簡が浮んで参りますたが夫て一も二もないと存じ先づ辛抱して讀んで行きますと抑も禮拜ある者は敬慕の意より起る者にて人若し何物ありとも之を敬慕する時は之を禮拜して其性質に倣はんとするよ至るは自然の人情なり左れば手本とも成すべき禮拜の目的物が泥や木にて造られたる資性不完全なる偶像みては甚不都合者は即ち完全無缺慈愛無量なる天地萬物の造り主たる眞神の外は他に一物も有之間敷云々と説き始めて有りました左れども此れ丈けの事では中々以て得心が出来ませんでしたが退々進んで無神論者に有神の證據を懇々説明致す一段に至りました

ては餘程理屈も綿密でありましたから是には大分感心いたしました一脉私迦も神などを申しませんが靈妙不思議な一種の自然力が此宇宙間に存在して居りまして万物を創造し且之を養育致します事は以前より固く承知いたして居りまして何んとなく氣には掛つて居りました又是近世の中の學者連中が如何程込み入りたる議論をしても此自然力の出處の取調方に至り升とキックリ詰つて何れも不満足なる辨論を以て遣ひ拂を慥に神ありと見定めが付きました然るに若し此場合に於て宗教上から濟ませる様に見えました然るに夫こそ一切何ものも神の力と極める事が出来ますから如何なる六ヶ敷き問題もスラ〜〜滞りなく分つて仕舞ふに相違ありません其有様を譬へましたらトント廣大至極に込み入りたる蒸氣機械へ一と吹きの蒸氣が吹き入るや否や有るとあらゆる諸道具が隅から隅までガツタ〜ト運轉し始める様な鹽梅でありましよふ然るにその一切を神の力と極めるには唯神ありと信ずるヨリでなく神は全智全能なる者形なくして何處にもいまとざる事なき者慈愛に富める者潔白にして正直ある者などと云ふ神の性質は申よ不及聖書の默示耶ち神が預言者なる者を通して我々に示されたる法律訓誨其他の託宣共孰れも異論なく信用致さねば

號二十二百學雜誌第二

矢張り種々の難題もスラ〜く氷解する場合とは決して參りません處聖書で最も用心と申所の奇蹟即ち理外の理が何分とも邪魔に成りまして右の神性も默示も之が爲めに中々信用致す譯に行きませんでした拵其邪魔と成り升奇蹟の事に付きても右の書物に段々合點の行くよふに論じてありましたが其内で一番成程尤だと感じましたは我々動どもすると神の行ひ給ふ奇蹟の事に付き是は理屈に合ひぬとか彼の奇怪千万だと申して果て無神論の極端に走る者あれども是は畢竟我々動物と神との動に夫々の區域有る事を承知不致より起りたる謬りと可申なり其次第ハ凡そ此天地間に動作を爲す者何万種あるも之を大別すれば人類と他の動物の二種に外ならざるべし因て茲の動作の範圍を三段に分ち下段を動物の範圍と定め此内にハ鳥獸蟲魚一切の動物を含蓄し夫より中段を人類の動作範圍とし上段を即ち神の區域と定めたる處で拟今下段ある動物より中段なる人類の動作を仰望したらん又へ必ずや事々物々鳥獸等の眼にハ奇怪至極不條理千万なる者ならん既に同じ人類の内ですら文明人の蒸氣電信の作用を野蠻人が始めて見た時の魔法だと思つた事ハ珍らしからぬ話である位然るに右鳥獸等の怪しとする事物を人類の範圍内に立ち入り夫々取調ふる特の執りも理屈も叶ひ前道も合ひ少しも不足怪なり夫よ

り順繕り又此度の中段の人類より上段を望んで神の動作を観ひたれば如何あるべきや即ち此處が邪魔に成るべき奇蹟の顯現なり實に是ハ尤千万なる次第にして如何程似て居ても猿の猿にして万物の靈たる人間の舉動の彼等に別るべき筈なし夫と同様如何種文明開化の學者連中でも根が五官の助けを假らざれば何事も通知する能ひざる不完全至極ある人類の身を以て全智全能ある神の動作を一々人間界の理屈に合はして測り知るべき謂はれなし然るに其不理屈なる奇蹟も若し一步を進めて神の動作範圍内に踏み入り取調べたらんにはかの鳥獸等の奇とする人間の動作が奇ならざると同様神の所謂奇蹟なる者も神の區域内に於ては孰れも理屈に協ひて更に奇とする者あかるべし云々と説てありました元より根が無形の事柄故議論を始めたけには際限は有りませんが私には此説が至極理屈に合つて尤千方百聞えましたから夫よりあれやこれやの書物に引合はせて勧考しました處始めて人智は神力を測るに不足と申事が判然合點が行きました其合點と同時に再び聖書を手に取る氣に成りまして夫からは是迄邪魔になりました奇蹟が退々目に障らなく成りまして遂には此奇蹟があるの聖書の聖書たる所以を發明する様に成りました併し此發明は余程後日

女學雑誌第二百二十三號

津乙女に戀々して、假令ひよし恨死するに至るとも、其苦吟する所ろは左して世を動かすに足らざる也、歌は第一に平民的ならずんばある可らず。

以上三事の改良を施さんには、先づ詩仙の極めて尊どむべきことを明し、俗人の決して歌の神靈を犯す可らざることを示し、大なる愛國者、大ひなる哲學者、即はち目下の大ひなる英雄の任じて詩を詠せんとを叫び望むに在り、區々たる語調韻格の議論は三文の價值もあるあし、茲に大詩仙出でば其人の吟詠は自然にして調和すべし、彼れ天地の調和を直覺し、世道の調和を認識す、苟くも調和に逆らふものあらば亦た一層烈吟すべし、其吟する所ろ惣べて調和にあらざるとなし、於此乎、其半句隻節皆な翕然たる音樂にあらざるはあし、語調韻格は自づからにして成らん、故に吾人は先づ大詩仙の起らんとを祈る、謹しんで大詩仙の起らんとを祈る。

女學雑誌第二百二十四號以下三號に連載せる「將來の和歌」の説を觀せば幸わひなり。
此程少しく放ありて主の御恩を知らぬ人を思ひまた
我身をかへりみて
けがれにしからだの中につみては
清きみたまもひかりなきかな

在布畦受洗の始末（下）

安藤太郎君演述

折前にも御話致した通り何分讀む氣に成りませんでした聖書が再び手に着く様に成りまして先づ神父は有ると見認めが付きましたが是より猶一層困難を極めましたは耶蘇は神の子か但しは唯の人間かの一問題でありました元來如何なる耶蘇教の反對者でも耶蘇は豪傑とか又は聖人で孔子や釋迦と併立する者だ位の事は通例明言して居る様ですから人間と見て譽め立て升分は何の雑作もありませんが若し之を神の子と見認める段に成りますと耶蘇は我々の身の上に容易ならざる關係が出来致して参ります其次第は先づ我々の先祖の神に罪を犯したるより我々の子々孫々神の罪人と生れ來りて孰れる神より至當の刑罰を受けねばならぬ譯であり升處慈愛に富める神は之を罰するに忍び玉ハア兼て我々の先祖に約束し玉ひし通り其獨り子なる耶蘇を自今一千八百九十年前猶太國「ナザレ」の處女「マリヤ」に降誕せしめたり左れば耶蘇にて三十二年間此世に在りて人々に悔改めの道を教へたる後預言の通り我々の罪に代り身を十字架に懸け死後三日目にして甦生り人々に

出現したる末昇天に及び父ある神の右に座し彼所より生ける人と死せる人とを裁判せんが爲めに來り玉はんとす故に我々には今日此試みの世の中にある間一刻も早く自身の罪過を悔ひ改め聖靈の洗禮を受け「キリスト」の救を仰ぐべし不然時は獨り此現世に於て福難憂苦を蒙る耳ならず未來に於ても永遠無限の刑罰に陥いるべしと申事にて「キリスト」信者たらん者の第一番に篤と心得べき眼目たるは私が今更喋々する迄もあい事と存じ升然るに一と通り神有りと見認めました者にも此等の箇條は何分にも右から左へ得心致されませんでした先づ其次第を申升れば第一に神は全智全能にして何事でも出來ざる事なき者であり升のに何故人類を造るに善ばかり爲して決して惡を行はざる様には造り玉はざりしや不審千万なりとの疑が起りました又我々を凡て罪人なりと判断せらるれども他人は不知私には是迄人殺し火附竊盜の如き公罪は勿論苟も良心に恥べき所業は決して振舞ひたる覺え無之と自身で無罪宣告に及びましたソコテ肝心なる「キリスト」の救が一向必要でなくなりました夫より靈魂の不滅と未來の裁判の點に至りまして書生の頃より佛法の地獄極樂を馬鹿に致した癖が何處か何處まで附て廻りましても其道理と研究する了

簡に成りませんでした故折角例の冊子に丁寧反覆して説てありました箇條も一向讀む氣に成りませんで再び福音書の研究を中絶致さんとしましたが去り逆是程迄に辛抱して調べて参つた「キリスト」教を今更半途で見限り升のは如何にも殘念ですから又種々雜多の書物を引出し段々吟味して見ました處靈魂の不滅と未來の裁判が第一番の故障ではれさへ分れば外は格別六ヶ數くない様に見えました扱前にも申した通り一旦神ありと見認めの付きました以上には先づ以て神が我々人類の身體精神を如何様に造られしや又其周圍の萬物を人類の爲めに如何様に組立たるやを取調べて見升のは此際必要的事だと存じ夫から夫へと考へて見ました處神の我々人類の都合を謀り注意を加へらるゝ事は實に何共警ふるに詞なき次第でありました然るに斯くまで人類の爲めには抜目なく世話をせらるゝ神が如何なれば人類に取て最も肝心なる道徳の一點に於ては善を爲すも賞する事なく惡を行ふも罰する事あくして唯此一條のみは不完全なる人智の教育や法律にのみ打任せ更に不顧と申す道理がありましよふか甚以辯證の不合次第柄であります若し又愈人類は此世限りの物にて善人も間が悪いと艱難辛苦の其上に短命で相果ても夫れ切り又悪人と雖も時運次第で

女學雑誌第二百二十三號

は富貴歡樂心の儘にて天年を全くしても夫れ切りにて如何程全智全能なる神でも此れ丈けは致し方あき者である日には人間の社會ほど恐ろしき者はなく又人類たる鉛々ほど哀はれな動物はないと思はれます併し先程も申升通り斯く迄人類に深切なる全智全能の神が決して我々を其様な恐ろしく哀はれる有様に捨置かるゝ筈が無いは明白に分つて居り升からそふして見升と靈魂の不滅は即ち人類の他の動物に異なる要點にして未來の裁判は萬不可止の事實と體に合點が行きました實に此の三ヶ條は私に取ては「キリスト」教諸難問の鍵又は謎の題とも可申者でありましてこれが分明に解けますと一度に前に述べましたる我々が罪人ある事も神が人類を造るに善惡を引續て「キリスト」は神の子たるべき事も盡く氷解いたし露ほども不容疑様に成つて参りましたそふすると何やら夢でも醒めたる様な心地が致して遂に洗禮を受けましたは即ち一昨年七月十五日の事でありました。

折右は私が洗禮を受ける迄に決心の出来ました由來の荒増であり升元より今日から考へて見ますと論說の立方が隨分とも違ひ上に誤解の廉も不少様に存じ升が夫でも是れが神ありと

信じ「キリスト」を救主と見認めました根本で私に取ては餘程の幸福でありました然るに馬太傳第五章に心の貧しき者は福なり天國は即ち其人の有なればなりと申す通り若し私が夫れましたあら「キリスト」教の眞理ハ一も二もなく會得する事がこそ一丁字も不知して心が眞に赤貧空虚で小兒の如くにあり道具が例の變則で亂雜に推込んでありますから何分其庫内へ眞理の入るべき寸隙もありませんでした夫ゆへ是迄の聖書行を許しませんでもした然る處此度は斷り切れぬ場合と成り暫時真理を庫の戸口に音づれましても庫番へ皆断りを申して通事に私の庫の雜物へ御承知之通り孰れも手輕き品物故運び出して其跡へ案内至したと申す譯合であり升夫でもまだ幸なりに成り升と格別手間も掛りませんでしたか世間の方々の心の庫に貯められたるものがシカモ正則で隅から隅までギツシリ詰め込んであるのが澤山にありますよふから夫で眞理が如何程音づれましても庫番へ一向耳にも不掛又ケンモホロの挨拶で拒絶致し升のが一般である様に存ぜられます併し「キリスト」教の眞理に付ての論より證據が澤山にあり升か

ら皆様の内若し未信者の方があり升なら何卒御庫の貨物を何程か御運出しなされまして眞理に場處を御與へ下さる、様失禮ながら御注意申し升。

山寺の春の夕ぐれ來て見れば

入相のかねに花そぢりけり(龍因)。

わび人のわきて立よる木の本は
たのもかげなく紅葉ちりけり(花山僧正)。

批評

撫象子

正行郷

新撰軍歌集の第一として、菟道春千代氏の作にあれ、「正行郷」四條畷の段を讀む、何如なる格調にて歌ふやらん、一誦

して別に心ちよく勇ましきの韻あるを覺えず、中にも

病の多き身あるゆゑ

空しく月日過すうち
病氣の上に玉の緒の

もしや病に冒されて

絶る事しも有あらば
の如き、彼の昔し新肺詩とやらん云ひけるものに左も似たる

の唱歌は、優雅温静にして確かに優りたるを覺ゆ。

吉野靜

撫象子

文の一變するや吾人大たく歎けり、其の再變して「國本」となるに及びては、更に長歎せざらんとするも得ず。云く、國本の主義は、獨立不偏にして正理公道を循守し、政治經濟を經緯し、公明の批評者、正確の判断者であるにあり。之れ今の時勢に用なしを云ふにあらず、然れども彼の歴史的、尤とも正確なりし第一世「文」の、此に全く其跡を絶つに至りては、世の學術の爲めに深く悲しまずんばある可らず。

國本 論

新論子

必らずしも秀拔なる大車輪ありと云はず、必らずしも偉麗筆動きて鬼を泣かしむるこ云はず、然れども其議論の實質にして慷慨に讐み、深く民を愛し國を愛する

の雄志に勃々たるは、近時菌の如く生ずる雑誌中に於て、われ愛民公論の只だ一層目立ちて見ゆるを認たむ、願くは健全にして益壯んならんことを。

天則

推理學人

其の第三篇より改進したり、松柏は老れども至つて床と、綠竹は若やげども細き所らあり、改進後の天則、管に面白きのみならず、亦た梗概實質るらんとを祈る。但し今後は追々に新説を見るとを得べき歟、之れ先づ賀せんばある可らず。

作者俳人

ちよ

小説家の小説論大方た一變したるは、喜ぶべきの進歩あり。くだへしき牡丹餅主義に厭を生じ、俳諧精やくに流行す、唯えば翻譯の境ひ一たび變じて、洒々淡々に入るが如し、左れど之れ亦た久しうらじ。惣じて文學界此頃の歩みは、正路に進むの道行きなめれ。

新誌書樓

撫象子

竹の子すでに蔓をあり、爾後いたづらに芽を生やすとなし、雜誌界新らしき客少なくして舊きもの殆や老衰す。新聞帶は價上げの相談に忙がはしく、本屋は賣れぬによりて困苦勞愁の苦しきよりも苦し氣なり。文字の境ひにぎはしさがふむ能はず。

【編集後記】

令和元年度が終わりに近づき、春の到来は例年より早まり偕楽園の梅の花も見ごろを迎えていました。

今年度は天皇陛下の代替わりとそれに伴い改元が行われ時代の変遷を目にしてきたことは私たち個々が歴史の一端を担っている実感がわきます。

また一方で自然災害の怖さを実感した一年でもあります。年が明けては新型コロナウィルスによる肺炎が流行しつつあり先の見えない恐ろしさを感じるこの頃です。

今回の「公民館まつり」には年初2回の「公開講座」の内容や「根本正ゆかりの地旅」「根本正顕彰フェスティバル」「公民館まつり」等の充実した事業活動の記録を出展しました。

2月には「現代に息づく根本正」と題し第2回公開講座が開催され、根本正が生きた我慢忍耐の時代から今日のテクノロジーの浸透や人とのつながりが希薄な現代までの社会情勢の変化に伴う青少年の置かれた環境を追いながら、根本正が生きていたなら何を思い考えるであろうか、根本正の精神から何を学びどう生かすか。今を生きる私たちは考えなければと思う講座でした。

人は一人では生きていけない存在ですが、世の人々の考え方や価値観が多様化し、自然環境、人権、経済それぞれの問題が複雑に絡み合う現代は、個々の価値観を認め合いながらも共有できる価値観を見つけ出しより良い世界に向かへ一人一人が考え方行動しなければと考えております。

根本正顕彰会は本年度の事業を皆様のご協力のもとすべて無事終えることができました。

令和2年度に向け、有意義な顕彰会活動を目指して計画を練っているところですが会員の皆様からご意見・ご希望・アイデア等ありましたらご一報いただければ幸いでございます。

(横地富子 記)

